



Vol.221

宿泊研修

2月7～9日、国立日高青少年自然の家へ1学年が宿泊研修に行ってきました。結団式では、「時間を守る」「集団生活の心得」等について代表生徒から決意表明がありました。施設到着後、職員の方から、施設の使用法やマナー、研修への参加姿勢などについて説明を受けました。初日・2日目は、隣接する日高国際スキー場でスキー研修を行いました。両日とも、天候に恵まれ、快晴の下、スキーを楽しみました。インストラクターより、基礎からしっかりと教えてもらい、個人のレベルに合った指導を受け、全員がスキーを満喫することができました。夜の研修では、卒業式に向けて、本校の校歌を重点的に練習する取り組みを行いました。最終日は、「七宝焼き」に挑戦しました。男子はキーホルダー、女子はブローチを作りました。

宿泊研修終了後の生徒たちの感想では、「スキーがこんなに楽しいものだとは初めて知った」「普段話さない友人とたくさん話げできた」「校歌を自信を持って歌えるようになった」など、研修の成果を実感できた3日間となりました。

厚真町  
地域おこし  
企業人



こまつ みか  
小松 美香さん (36歳)

着任 平成27年7月 (3年目)

出身地 福島県会津若松市

所属企業 ワタミ株式会社

> 3月末で派遣期間が終了しますが、厚真町での活動を振り返ってみていかがですか？

上厚真地区に太陽光発電所を設置したご縁で、ワタミ株式会社から厚真へ来て約3年。何も知らなかった町が故郷へと変化しました。たくさんの方々が気にかけてくださり、また町の未来のために頑張る方々の刺激を受けてここまで来れました。感謝です！

> これまでの活動について教えてください。

さまざまな事業に関わらせていただきましたが、ワタミの外食店舗で厚真産食材を提供できたことは、町のPRにもつながったと思います。ワタミでも地域の食材を使用したメニューを、生産者や現場を紹介しながらの提供を推進したいと考えているため、双方に良い結果になりました。

平成28年と29年に開催した「北海道わたみ自然学校 in 厚真町」では皆さまの協力を得て事故なく子ども

もたちが厚真で自然体験をすることができました。厚真はただ自然があるというだけでなく、森あそびやキャンプ、収穫体験、牛や羊との触れ合いなど、命や自然を肌で感じる体験ができます。会社のスタッフもこの厚真での体験に感化されました。今後も継続予定です。

> これからの予定を教えてください。

ワタミの社員として厚真に事業所を置き、上厚真地区の太陽光発電所で発電した電気をこの地域の方へ提供し、資源も経済も地域内で循環する仕組みを作っていく予定です。

また、町で移築再生する旧山口邸の古民家で、レストランと民宿を行い、地域の食材を使った食事と心の安らぎを提供したいと思っています。

厚真での雇用や事業拡大をめざしますが、純粋にみんなが幸せになれる社会を作っていきたいですね。これからもよろしくお願いします！

短歌

将来は牛飼いで目指す愛孫のやさしき心根苦難もあるぞ  
我が庭で一番先に水仙が石垣陰に芽ぶき咲きたり  
一瞬の小鳥の気配に息を止めレンズを通して木の葉散るのみ  
新町 徳地 美登

### ほくのわたしの 作品紹介

あつ ま ちゅうおうしょうがっこう ねん  
厚真中央小学校 4年  
くらしげ はる  
藏重 晴さん (10歳)

セロハンやビニール紐を使って光の差し込む絵を作りました。青虫がストローを使って水を飲んでいる様子を作りました。

あつ ま ちゅうおうしょうがっこう  
厚真中央小学校 4年  
さい  
飯塚 芽生さん (10歳)

タイトルは「果物の世界」です。自分が思い浮かべた世界を作りました。果物の種類をたくさん考えるのが大変でした。

男の子11人女の子13人の元気いっぱいいきりん組です。クラス目標である「思いやり」と「メリハリ」を胸に毎日楽しく生活しています。体を動かすのが大好きで、夏は外で鬼ごっこ、冬は室内でドッジボールを楽しみ、現在は鉛筆の正しい持ち方を学ぶために鉛筆遊びを行っています。

普段はマイペースなきりん組ですが、行事の時の団結力はどのクラスにも負けません！運動会ではバルーンにチャレンジ。みんなで協力し合いながら練習を行い、本番では花火と呼ばれる大技も見事に決め、大きな拍手をもらいました。発表会ではテレビCMでおなじみの三太郎をやることになり、桃太郎の物語をベースにして、浦島太郎や金太郎はもちろん、乙姫や森の動物たちも出演する、見ごたえのある劇をみんなで作り上げました。

そんなきりん組も春から1年生。あいさつや話をしっかり聞ける1年生になれるよう卒園式まで頑張ります。

クラスじまん!

こども園つみき  
きりん組

書いてくれたのは…  
もりた たかとも  
森田 崇公先生

